

令和3年12月13日

山口県体育学会関係各位

理事長 岡野 亮介

山口県体育学会第66回大会

ご案内

時下、皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より本学会の発展につきまして、御高配賜わり誠にありがとうございます。
さて、標記大会を下記の要領にて開催いたします。
多忙の折りとは存じますが、是非、ご参加下さいますようお願い申し上げます

記

日時：令和3年12月19日（日）

10:00～（受付9:30～）

場所：至誠館大学 3号館 313教室

（〒758-8585 萩市椿東浦田 5000）

主催：山口県体育学会

（ホームページ：<http://www.yamaguchi-taiiku.jp/index.html>）

後援：至誠館大学

至誠館大学キャンパスマップ



—大会プログラム—

受付 9:30～
開会の辞 10:00～10:05

I. 一般研究発表（発表 10 分・質疑 3 分）

座長 山崎 文夫（山口県立大学）

10:06～10:19

1. 短期運動プログラムにおける幼児の身長および運動能力の増加量の関係性

井川 貴裕（至誠館大学）

本研究は、3 か月の運動プログラムにおける幼児の身長増加量と各種運動能力測定項目の増加量との関係性を検討する事を目的とした。対象者は定期的な運動教室に参加する幼児 20 名（4～5 歳児）とした。運動教室は 3 か月間実施され、その前後に疾走能力として 10m 走、方向転換能力として 2.5m プロアジリティ走、敏捷性として 4 センサーアジリティを測定した。その結果、全ての運動能力項目の増加量と身長増加量との間に有意な関係性は認められなかった。以上のことから、幼児に対する短期間の運動プログラムにおける運動能力の向上は、獲得した運動スキルによるものである可能性が考えられる。

キーワード：幼児、コーディネーション運動、運動能力測定

10:20～10:33

2. E スポーツにおける規範形成に関する考察

船場 大資（山口学芸大学）

近代スポーツにおける規範形成は英国のスポーツマンシップによる影響が大きかった。それは、当時世界で最もパワーを持った英国への憧れや文化帝国主義的な伝播要因があったことは否定できない。そこで本研究では、現代に誕生した E スポーツの規範が何に影響されて形成されているのかを検討することにした。

キーワード：スポーツ規範、スポーツ史

座長 青木 健（山口大学教育学部）

10:35～10:48

3. 市民マラソン大会への継続的な参加要因の検討

—維新の里 萩城下町マラソン大会の参加ランナーを対象として—

岡崎祐介・井川貴裕・鳥山稔・福田一儀（至誠館大学）

萩市最大のスポーツイベントとなっている維新の里 萩城下町マラソン大会は、全国各地から例年 3,000 人以上の参加があり、2017 年大会で 10 km の部が廃止されるまで年々参加者を増やしてきた。観光業が盛んな萩市にとって、スポーツイベントを地域活性化と関連付けていくことは重要な視点である。本研究では、2016 年から 2019 年までの 4 年間において、萩城下町マラソン大会にて完走したランナーへの満足度調査の結果について検討した。その結果、参加者は大会全体に対して非常に高い満足度であったが、一方で今後も大会が存続していくための課題も明らかとなった。

キーワード：市民マラソン、スポーツイベント

4. CLIL の視点を取り入れた英語による体育実技授業の試み (5)

－英語を使用したバドミントンの授業を事例として－

伊藤 耕作 (宇部工業高等専門学校)、二五 義博 (海上保安大学校)

現在日本では、外国語の効果的な習得方法の 1 つとして、CLIL (内容言語統合型学習) が注目されつつある。CLIL とは「内容と言語」の同時取得に加え、「思考」や「協学」の要素も取り入れた、より質の高い学びを目指す学習者中心の指導方法のことである。他教科内容との組合せとしては、英語と算数、理科や社会とは既に実践例があるが、実技教科、とりわけ、体育を事例とした研究はまだ少ない。そのような中、伊藤・二五は、団体競技 (サッカー、バレーボール、バスケットボール、パラスポーツ) を事例として取り上げ、主に CLIL の 4C の視点からの分析により、体育と英語の教科横断的授業による利点や課題を明らかにしてきた。本発表はその第 5 弾として、個人競技 (バドミントンダブルス) の内容を英語で学ぶことが、内容への動機づけ、コミュニケーション能力の育成、思考や協同学習の視点でいかなる効果があるかを探る。

キーワード：教科横断的授業、CLIL、バドミントン

II. 講演会

座長 丹 信介 (山口大学教育学部)

11:20～12:20

「踵骨骨強度の発育特性と男女差－栄養、身体運動及び疾病等と関連付けて－」

山口県体育学会理事長 (至誠館大学教授) 岡野 亮介 氏

骨粗鬆症の罹患者はその予備軍まで含めば、現在約 1300 万人いると言われている。近い将来 3 人に一人が 65 歳以上という超高齢化社会が予想されている中で、その予防法の確立が求められている。ところで骨密度を測定する方法としては DXA (Dual energy X-ray Absorptiometry) が精度の高い値を得られるということで一般的であるが、測定に資格上の制約があるため、超音波法で代替えられる場合も多い。我々はこれまで両者の方法で様々な人々を対象として骨密度と骨強度 (踵骨を対象とした音響的骨評価値) を測定し、身体運動、血中成分、栄養及び疾病等との関連性並びに発育特性や男女差を追究してきた。本講演においてはそれらの結果と予防のための身体運動の方法の一部について紹介する。

III. 総 会 12:25～

報告事項

1. 令和二 (2020) 年度会計報告
2. 令和三 (2021) 年度事業および会計経過報告
3. 令和三 (2021) 年度日本体育学会報告
4. その他

協議事項

1. 令和 4 (2022) 年度事業計画について
2. 令和 4 (2022) 年度会計予算について

以上

【 演者の方へ 】

- パワーポイントを使って発表される演者の方は、PC (OS: Windows) とプロジェクターをこちらで用意いたします。ただし、ソフトは、PowerPoint 2016 ですのでご注意ください。
- プリントを配布される方は、資料を 30 部ほど各自でご用意ください。
- これら以外の方法で発表される方は、事務局までご連絡ください。

【 参加者の皆様へ 】

- 大会参加費は、無料です。
- 山口県体育学会会員の方は、年会費 (¥2,000) の納入をお願いします。
- 本学会への入会を希望される方は、ホームページの「入会案内」をご覧ください。

【 お知らせ 】

『山口県体育学研究』第 65 号への投稿を募集しています。
なお、投稿についての詳細は、『山口県体育学研究』の「投稿規定」をご覧ください。

山口県体育学会事務局

〒758-8585 萩市椿東浦田 5000

至誠館大学現代社会学部岡崎研究室内

電話 0838-24-4000 (代表)

FAX 0838-24-4090 (代表)

E-mail : y.okazaki@shiseikan.ac.jp